

1・6 調査研究の外部評価

当所の調査研究について外部の意見を聞き、県民ニーズに合致した効率的・効果的な研究業務の遂行とその透明性の確保を図るため、外部評価委員会による評価を行った。

○開催日

平成25年12月25日（水）

○委員

学識経験者等5名

○評価対象

計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等を評価）・・・1件

中間評価（調査研究の進捗状況、継続の妥当性等を評価）・・・なし

成果評価（調査研究の目的の達成度、施策への寄与度等を評価）・・・なし

○評価方法

項目別評価、総合評価とも次の5段階で評価する。

5：非常に高く評価できる。

4：高く評価できる。

3：評価できる。

2：あまり評価できない。

1：評価できない。

○評価結果

下表のとおり

(1) 調査研究課題
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスの生態学的研究 （研究期間：平成26～28年度）
(2) 項目別評価
①調査研究目的の適切性・妥当性 5 ②調査研究体制等の適切性・妥当性 4 ③衛生・環境行政施策への寄与度 5 ④学術的意義・技術開発への寄与度 4 ⑤県民ニーズへの対応状況 4
(3) 総合評価
総合評価 5 ・死亡率が高い危険なウイルスに関する緊急性のある重要な研究にタイムリーに取り組むことは評価できる。 項目別評価が4の項目も5に近いので総合評価は5とする。
(4) 委員のコメント
①国や他自治体の研究機関と連携をとって研究に取り組み、早く成果を出してもらいたい。医療機関、医師会、学会等との連携も必要。医療機関からの症例収集や医療機関に対する症例を示した注意喚起等ができる。
②研究成果の県民への提供については、どの段階でどのような情報を提供するかという計画を研究に入る時点で立てることが必要。ウイルスの生態の他、動物が介在する背景、どの程度の症状なら受診が必要かなど県民が必要とする情報が適時・適切に届くようにしてもらいたい。人は忘れるので継続的な情報提供が必要である。また、関係する学会でも積極的に発表してほしい。
③シカ、イノシシを調査することは意義があるが、人の生活環境に近いところにいるイヌ、ネコなども調査してもらいたい。ペットを介した感染のおそれがあるならペットの管理についても注意喚起が必要になる。
④SFTSと免疫不全となる合併症との関係があることが分かれば、それに応じた注意喚起ができる。
⑤抗体の有無等を調査すれば予防ワクチンの製造に繋がる。もう少し疫学的な対策も含めた研究内容にすると研究が大きく飛躍できると思う。
⑥軽症例の発見が研究の手がかりの一つになると思う。ウイルスに感染しても発症しない人、発症しても軽症の人がいるかもしれない。